

「ひいばあちゃんへ」

國松 滯（愛知県名古屋市・六歳）

もつとあそびたかったよう

もつとおはなししたかったよう

ばあばとママから ひいばあちゃんは おはながすきだときいたよ

みおはおはなは ねもふいらとばんじーがすきだよ

ひいばあちゃんは なんのおはながすきですか

おにわの ねもふいらの あおいろがみえたらあそびにきてね

てんごくでもおげんきで

だいすきですよ

※母補足です

この手紙は、私の娘（名古屋在住）から先月亡くなった祖母（西条在住）への手紙です。

祖母は私の父母と同居していたので、西条に帰省するたびに娘は「ひいばあちゃん」の部屋を訪れ、お話をしたり折り紙を折ったりおやつをもらったりと二人の時間を楽しんでいました。

そんなひいばあちゃんの訃報を知った時、娘は大泣きして悲しみ、最後のお別れをしたいと思います。あいに、娘は持病の喘息が悪化していた時で、親としては名古屋から新幹線で帰らせることはできず、泣きながら怒る娘をただなだめるしかありませんでした。

その後、四十九日の法要が春休み中に行われることが決まり、体調もおちついていたのでそれに合わせて帰省してきました。

少し前に白い羽のポストの話を娘にしたところ絶対にひいばあちゃんへのお手紙を投函したいとのことで、今回直接投函しにきました。

まだ色々と整理のつかない部分はあるようですが、この手紙を投函することが、娘が前へ進む一助になってくれたらと思っています。